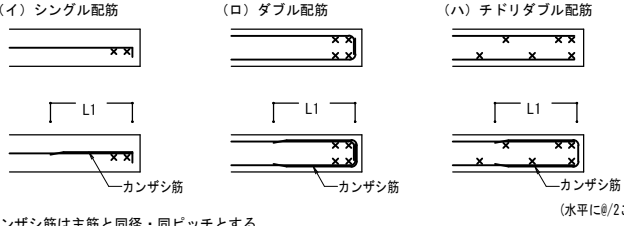


特記仕様書補足		項 目		特記事項		耐震改修一般事項	
0. ～6. における採用事項		② 穿孔方法		穿孔機械は金属探知により電源供給が停止できる付属装置等を使用する。 ※ハンマードリル      ・コアドリル			
①. 項目欄は番号等に      印を附したものを適用する。		③ 既存部分の目荒し		既存部分の目荒しの程度：      既存柱、梁面は打継ぎ面の      ※15～30％程度      ・      ％程度      _____ 既存壁      は打継ぎ面の      ※10～15％程度      ・      ％程度      _____		1. 壁	
②. 項目欄に      印を附し特記事項欄に      印を附してない場合は標準仕様書による。				既存部分の目荒しの範囲：      平均深さ2～5mm（最大7mm）程度の凹面を全体にわたってつける。		（１）既存壁に開口を設けてはならない。やむを得ず設ける場合は監督員の承諾を受ける。	
③. 特記事項は      ・ 印を附したものを適用する。但し      ・ 印の付かない場合は※印の附した事項を採用する。						（２）割裂補強筋は、改修壁の柱・梁に接する面全てに配置する。	
・ 印と ※ 印を附した場合は共に適用する。						（３）割裂補強筋は、6φスパイラル型とし、ピッチ、スパイラル径は特記による。	
						（４）割裂補強筋の継手は、2巻以上の重ねとする。	
						（５）改修後耐震壁の末端部及び開口により切断される鉄筋にはフックを付けるか、カンザシ筋による補強を設ける。	
項 目		特記事項		割裂補強筋			
④ 適用範囲		工事内容      ・ 現場打ち鉄筋コンクリート壁の増設工事 ・ 鉄骨ブレースの設置工事 ・ 柱補強工事（溶接金網巻き工法又は溶接閉鎖フープ巻き工法） ・ 柱補強工事（鋼板巻き工法又は帯板巻き工法） ・ 柱補強工事（連続繊維補強工法） ・ 耐震スリット新設工事 ・ 免震改修工事 ・ 制振改修工事 ・ 天井改修工事		4. 既存構造体との取合い		※図示      ・	
		工事種別      ・ 施工調査（施工計画調査、施工数量調査、調査のための破壊部分の補修） ・ 撤去工事（設備機器配管及び仕上げの取壊し ・ 撤去（下地の一部又はすべてを含む）、構造体のはつり）					
		・ 鉄筋工事 ・ あと施工アンカー工事 ・ コンクリート工事 ・ 鉄骨工事 ・ グラウト工事 ・ 連続繊維補強工事 ・ スリット新設工事 ・ 免震改修工事 ・ 制振改修工事 ・ その他工事		5. シアコネクタ （現場打ちコンクリート壁の打ち増し部に用いるシアコネクタ）		種類      ※金属拡張系あと施工アンカーの異形差筋アンカー ・ 径（mm）      ※D10 既存壁への有効埋込み長さ（mm）      ※7d（d：シアコネクタの径） 増打ち壁への有効定着長さ（mm）      ・ 図示 間隔（mm）      ※500x500      ・ 図示	
				⑥ 既存躯体の補修		既存躯体の不具合（ジャンカ、コールドジョイント、0.3mm以上のひび割れ、鉄筋の露出、かぶり不足）が確認された場合、発注者及び監理者と協議を行い、対策を決定すること。 例）・ジャンカ、コールドジョイント：脆弱部をはつり出し、断面修復剤等にて補修等 ・ 0.3mm以上のひび割れ：エポキシ樹脂注入等 ・ 鉄筋の露出、最小かぶり未満：かぶり不足部が脆弱な場合は除去し、断面修復材等にて最小かぶり厚を確保する等	
① グラウト材の材料		無収縮グラウト材の材質等		⑦ 事前調査		鉄骨製作図作成前に、スパン、高さ、部材長等の実測を行い、製作図に反映させること（既存天井形状を再現するために必要な調査、実測）。 あと施工アンカー施工前にレーダー探査等で既存鉄筋や、配管、配線等に干渉しないことを確認すること。	
		混和材      セメント系（酸化カルシウム及びカルシウムⅥU+FF65サルフォⅥU+FF65アルミネート等によって膨張する性質を利用するもの）とする。		⑧ 鉄骨溶接部の外観検査		①. 溶接部の外観検査は完全溶け込み溶接部及び完全溶け込み溶接以外の溶接部を対象とする。 ②. 検査は抜き取りとし、ロットを適切に構成する。 ③. 完全溶け込み溶接部は、「15.12」による。 ④. 完全溶け込み溶接以外の溶接部では、ロットから10%に相当する部材数を検査対象とし、JASS6に示すそれぞれの検査項目について「管理許容差」を超える溶接線が5%未満の時ロット合格とする。5%以上となった場合は、その検査項目に関して、さらに10%に相当する部材数で検査を行い、1箇所でも「管理許容差」を超えた場合は、ロット不合格となり全数検査を行う。 ⑤. 個材の合否判定は、「限界許容差」とし、超えた場合は全て補修し再検査する。	
		セメント      JIS R 5210ⅥU+FF62ポルトランドセメントⅥU+FF63に適合した普通または早強ポルトランドセメントとする。		⑨ 既存鉄骨部材耐火被覆		既存鉄骨部材に施工されている耐火被覆を除去した場合は、現状復旧すること。 新設部材取り付け部に耐火被覆がある場合は、施工に必要な範囲を撤去し、同等の仕様で復旧すること。	
		砂      土木学会コンクリート標準示方書に定められた品質を有するもので、特に精選されたものを絶対乾燥状態で使用する。 ただし、現場調合形に使用される砂の乾燥状態については、規定しない。		⑩ 工事現場溶接		工事現場溶接の場合は、第三者機関による検査が全ての溶接箇所が対象とし、溶接による火気への管理を十分に行い、出火防止策を講じること。	
		材料は下記メーカーもしくは、同等品以上とする。 ポゾリスソリューションズ（株）      ： マスターフロー810 太平洋マテリアル（株）      ： ブレユーロックスM デンカ（株）      ： デンカプレタスコン      TYPE-1 （株）エービーシー商会      ： ノンシュリンクライトグラウト					
		無収縮グラウト材の品質及び試験方法					
		コンシステンシー      Jロートによる流下時間 練混ぜ完了から3分以内の値：8±2秒					
		ブリージング      練り混ぜ2時間後のブリージング率：2.0%以下					
		凝縮時間      凝結開始時間：1時間以上 終結時間      ：10時間以内					
		無収縮性      材齢    7日    収縮しない					
		圧縮強度      材齢    3日    20.0 N/mm2以上 材齢    28日    40.0 N/mm2以上					
		塩化物量      0.30 kg/m3以下					
		試験方法      1) NEXCO試験方法    試験法312-1999「無収縮モルタル品質管理試験方法」による。プレミックス形と現場調合形で混和材が同一の場合の試験はプレミックス形のみとする。 2) 塩化物量の試験は、JIS A 1144「フレッシュコンクリート中の水の塩化物イオン濃度試験方法」による。					